

平成19年7月25日発行

若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
福井県三方上中郡若狭町熊川  
TEL/FAX (0770) 62-0330  
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>

# 鯖街道 熊川宿



勤兵衛茶屋オープン（平成19年4月29日撮影）

## 勤兵衛家でおもてなしスタート

熊川宿の豊かな資源を活かし、美しい町並みを守りつつ、まちづくりを今後どのように持続・発展させていくのかを考える「第二次熊川まちづくりマスタープラン」が策定されました。

その中で、熊川宿を訪れて下さる方からのおもてなしをということで、地元住民が主体となって「熊川宿おもてなしの会」が結成され、旧逸見勤兵衛家を活用して喫茶のおもてなしがスタートしました。

オープン初日となった、ゴールデンウィーク最初の日曜日は、家族連れや小グループの方々が大勢訪れました。

囲炉裏を備えた店内はギャラリーにもなっていて、絵画や写真が飾られ、二階からは大正琴のやさしい音色が聴こえます。このおもてなしは熊川宿活性化の最初の確かな一歩です。これを契機に「持続可能な自立したまちづくり」がさらに進んでいくことを期待したいものです。

### 目次

勤兵衛茶屋オープン	1
寄稿文・事業計画	2・3
マスタープラン報告ほか	4
活動報告・行事・話題	5
活動報告・川柳	6

## 黄昏

熊川区長 袖 長治郎

日の暮れ、初老のご夫婦にすれ違ふ。軽く会釈して後ろ姿を見送った。街灯にともされた灯は街道の表情を変え、往時を偲ばせる道標のようだ。手を携えてゆっくり歩く彼らを、町並みが街道をあげて歓迎している。閑静だが大いなるおもてなしである。贅沢な時を過ごされたに違いない。

熊川宿は伝建選定により、モノクロームの風景が色彩をとり戻し、美しいものは大切に守り継がれている。平尾希典氏率いる熊川宿伝統芸能保存会は、長く熊川村の人々の心のよりどころであった幻の踊りを復活させ、度あることにその確かなる伝承を目にする。

そして、大きな節目となる今年、区民の皆様のお力添えのおかげで順調なスタートを切ることができた。今後とも、ご期待にお応えできませう。一意専心努めて参りますので、ど



熊川宿夕景

この地の持つ力や性質に惹かれる。この先、何がかわろうと前川は流れているだろう。かわとでたそがれて、桜に負けない花人たちに思いをはせつつ、しばし心にある現実の重みを忘れよう。

うか最後までお付き合い下さい。

結婚して二十二年、嫁さんは三歩下がってその影を踏まずでなく、いらちの自分がいつも三歩前を歩いてきた。いかんせん落とし穴にもはまったが、フタをしてくれるので二度はない。ずいぶん苦勞をかけた。

そんな嫁さんと訪れてみたい町がある。赤石山脈の西のふもと、信州高遠。ここにはかつて城下町として栄えた古い町並みと、春には四十万人の見物客を集める天然記念物のタカトオコヒガンザクラの樹林がある。山深き地ながら学問と礼節が尊ばれ、そこに住まう人々は見知らぬ人にこそ礼を尽くすと聞く。時の流れの中で、脈々と受け継がれている美風と精神。誰からも影響を受けることのない

## おもてなしにあたって

熊川宿おもてなしの会 入江 克子

月日の経つのは早いもので勤兵衛茶屋がオープンして二ヶ月が過ぎました。オープンに向けて教育委員会の方、亀井会長をはじめ、会員が何回となく会を重ね、意見を出し合って熊川の町並みにふさわしい勤兵衛茶屋が開店しました。

昨年の十二月十四、十五日と愛媛県の内子町へ、おもてなし研修に参加させていただきました。内子の町並みから十二キロの山村に石畳の宿があり、古い民家を移築し、宿泊施設にしております。宿の食事は、石畳の土と水で育った新



石畳の宿研修（12月14・15日）



勤兵衛茶屋オープン（4月29日）

鮮な山菜を使った田舎料理をこころになりました。地元の主婦の心温まるおもてなしなど、パワーをいただいたり帰って参りました。私たちも今回の研修を通して、皆が心からのおもてなしが出来、訪れる人々が何度も訪れたくなる、そんな熊川宿になるよう会員が一丸となつてがんばっていきたくて思っております。いつでも気軽にお立ち寄り下さい。そして泉さんの葛ようかんと森のコーヒーを味わって下さいませ。またご意見等お聞かせ下さい。お待ちしております。

## ご案内

勤兵衛茶屋

日曜日のみ営業  
（午前10時～午後3時頃）

## 番所の日

熊川区民 S・T 生

今日は熊川宿の公開施設の一つである番所の管理である。今までの実績から見ると土曜日、日曜日がお客さんが多い。特に土曜日が多く思う。朝十時前に出勤、解錠して準備する。番所は欄の外より内部が見える。黒紋付に袴で、色白の武家姿で男人形が二人座っている。つまり通る人は見ながしである。午前中、道の駅から大勢の人が通る。

話は変わるが、夜、車窓から眺める家々にはみな灯りがともり一様に温かく華せそうに見える。どの灯りの下にもそれぞれ男と女の生活があり歴史があるが、その大方は平穩無事なる夫婦であろう。

何故ならば倦怠と時には頭をもたげる不満があっても、子供の問題、経済上の分別、社会的立場など諸々の制約が夫婦を危機から救う安全弁となるからである。その平穩無事なる夫婦が通る。日頃の生活から解放されたように遠くより声が聞こえる。手をつなぐ若い夫婦、少し間をおき歩く中年の夫婦、全然別行動の老年の夫婦とにぎやかである。通りすぎる後ろ姿に「どうぞ今後もお幸せに」と祈りたくなる。

窓口で入館料を勘違いして通行料かと言う人もいる。鯖寿司はどこが旨いかと聞かれ、返答に困る時もある。外から見えるので入館料という程のこともないが、たとえ僅かでも入ってくると嬉しいもの。門前の小僧習わぬお経を読むのたとえ、語り部の人たちの受

け売りで、番所の由来を解説すると熱心に聞いてくれる人がいるから張り合いがある。かつての熊川になかったことが到来している。道行く人に声をかける。「どこからいらっしやいましたか」と。あれ

これ聞くうちに親しくなり口がほどけてくる。やっぱり出会いである。そして心の触れ合いだ。これからも若狭町観光の一点を支える気で、みのりある日をつなげてゆきたく思います。

京都・土曜漫歩の会(10月14日)

○今日はお天気も快晴、参加者も多勢。久しぶりにおめにかかれた方々も、熊川宿をゆっくり散策が出来ました。鯖街道をゆききした荷の随分と多くにぎわった町の様子を思い浮かべたら……

○天高く腹肥える好天の一日、熊川宿では新発見多く有意義でした。宿場館での説明に伊藤忠商事二代目社長が当地ご出身とは初耳。鯖寿司もおいしかったです。

○鯖街道、天候にも恵まれきれいな山や景色とともに昔の宿場町を散策させて頂き、おいしい鯖ずしのお昼と楽しいこと発見出来ました。こと、バスも便宜をはかって下さりありがとうございました。

○きれいな街道、山、水、よく合った宿場町。建物もよく保存され土地の方々のご苦労が伺えました。

○熊川宿資料館にて説明を受け当時の往來の賑やかさと重要な要素であったことを聞き改めて、若狭と京都、若狭と近江のつながりを知ることが出来ました。街道の穏やかさに和む一日でした。

○福井県熊川宿。こんな遠い所迄こ

の会で行けるなんて……思わぬ幸せ。美しい街道又滔々と流れる水量の多い前川での華洗いの実演等土地の方のやさしさにも触れて良い思い出になりました。

たかつき歴史散歩の会(10月20日)

○熊川宿を歩く。信州木曾の妻籠宿と同様住みながら保存していくことの不断の努力に感服。

○熊川宿がひなびた宿場町でよかつた。外山さんの生地ということ一段と趣を増した。

○熊川宿は良かった。再度訪れてみたい所です。

○若狭街道、熊川宿など京との密接な関係、見聞によって知識を習得でき、楽しいツアーでした。

○お天気に恵まれた若狭行。小浜も熊川もよかつたが、私は鯖街道・国道三六七号線のドライブが気に入った。

○鯖街道は杉の美林と川の流れは二十年前と変わらない。私は細い清流が好きだ。熊川宿、明通寺山門下など豊かさと生命力を感じた。

※紙面の都合上、感想を短縮させていただきました。ご了承下さい。

## 平成19年度

若狭熊川宿まちづくり特別委員会

## 事業計画

- 4月18日 鯉のぼり吹き流し(河内川)  
29日 宿場館前の井戸ポンプ屋根工事(H18年度より継続)
- 5月19日 ツーデーマーチおもてなし  
23日 第29回全国伝建保存地区協議会並びに研修会出席  
24日 案内板の補修
- 6月中旬 城跡並びに一筆美林街道の整備
- 7月下旬 町並み通信 第15号発行
- 8月26日 鯖街道交流シンポジウム
- 平成20年  
1月中旬 町並み通信 第16号発行  
2月11日 熊川宿まちづくり総集會
- 随時  
・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈りなど  
・委員会、役員会、部会開催  
・ホームページの更新

## お便りより

熊川宿を訪れた方々が、後日感想をお寄せ下さいました。



## 第二次 熊川まちづくりマスタープラン 最終報告

熊川区・熊川まちづくりマスタープラン策定委員会

H19.3

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されてから九十年、

今、熊川を取り巻く環境は大きく変わってきました。特に近年熊川を訪れる観光客数は大幅に増加しています。反面、空家は増加し、少子高齢化も急激に進んでいます。このような状況の下、今後の熊川の持続可能なまちづくりの方策を探り、新たな課題に対応するための総合計画として「第二次熊川まちづくりマスタープラン」を策定することになり、メンバー十五名が昨年の八月から十一回の会合を開き熱い議論を重ねてきました。

そして、熊川の資源を生かした持続可能な生活をしていくための仕組みづくりを骨子とする基本方針が定まりました。住民へのアンケートによる意識調査を基に、住民の熱い思いが凝縮された内容となっています。

この計画を実行に移すのはこれからです。熊川をひとつの生命体として、みんながよくなるまちづくりをみんなで進めていきたいと思っています。

### マスタープランの基本方針

#### 【まちづくりの目標】

一、熊川に住むすべての人が幸せで快適な生活をおくれる環境づくり

二、熊川の資源を活用し、まちづくりを継続できるしくみづくり

三、熊川を訪れる人をもてなす魅力づくり

#### 【基本方針】

一、歴史的町並みと周辺景観の保全  
二、安全で住みやすい居住環境の創造

三、資源の活用と産業の振興

四、「みんながよくなる」まちづくり

五、鯖街道ネットワークの構築

(報告書より)



まちづくりマスタープラン策定委員会



報告書

### 12/10 全国都市再生モデル調査事業講演会

下関：文化財建造物の活用と都市再生紹介。善業しいまちづくりを、この事業が将来へのステップになる。

昌子：アンケートで沢山の意見を頂いた。中間報告。追浜まちなか研究の事例紹介  
高橋：荒尾の特産品開発の事例を紹介

### 12/17 住民学生協働ワークショップ

関東学院大学の昌子先生や学生さんと熊川住民の代表が、地域資源を活用し活性化を検討する意見交換会が開かれました。

学生さんからは、幅広いジャンルから企画立案したアイデアが発表されました。

住民からは、旧自然を楽しむ会や愛細工の会のメンバーが、昔の苦勞話や今直面している問題点や意見を出し合い、先生方からアドバイスをいただきました。



#### ■先生方のプロフィール

下関久美子氏：文化庁文化財調査官  
昌子 住江氏：関東学院大学工学部社会環境システム学科教授  
片寄 俊秀氏：大阪人間科学大学人間科学部教授  
福井 洋氏：福井大学工学部建築建設工学科助教  
勝村 誠氏：立命館大学政策科学部准教授  
市川 行氏：金沢大学広域戦略室長  
齊藤 崇氏：関東学院大学社会環境システム学科非常勤講師

### 1/27 全国都市再生モデル調査事業シンポジウム

片寄先生の基調講演と先生方によるパネルディスカッションが行われました。

片寄：居住環境を良くするまちづくりを続けてほしい。よその子を我が子のように接し取り組んでいく。

昌子：アンケートで町並み・山・川の意見が多かった。集計結果報告

福井：昔の建物の様子をスライドで鑑賞。今後の活かし方を考えたい。

勝村：建築研究の拠点を置く。学生が地域の応援団になる。

市川：金沢での活性化事例を紹介。人々が集まり出来事があると活気が出る。

### 3/11 熊川宿活性化事業報告会

学生さんから事例発表、先生方から報告や助言がありました。

下関：空家活用は短期貸借で審査して長期貸借すると良い。活性化を実行するのは住民の皆さんです。

昌子：熊川らしい空家活用、小学校との連携、熊川塾などどうか。

福井：山・川・まち全体、川と生活の関わりを考える。

勝村：ファンクラブを作るとよい。民官学の連携で教育上も地元にもメリット。

市川：若い人と経験豊かな人との交流で、ピカー、志の高いものを。(敬称略)

### 日本風景街道モデルルート事業現地視察



国土交通省のまちづくり支援「日本風景街道モデルルート事業」を受けて、鯖街道熊川宿まちづくり協議会が発足しました。

昨年の7月3日には戦略会議委員が、11月27日には近畿地区研究会委員が熊川宿を現地視察されています。

### 5/31 日本風景街道シンポジウム(東京)

全国から各ルートの関係者が集まり、熊川宿からも代表者が出席しました。講演の中で中村良夫先生は、熊川宿を訪れたときの感想や、鯖街道についてのお話をされました。女優の吉本多香美さんらによるパネルディスカッションや交流会もありました。



平成19年1月

## 1/18 文化庁西山先生を囲む会



昨年引き続き、文化庁文化財調査官の西山和宏先生をお迎えして、最新の重伝建選定状況や熊川宿への思いをお聞きしました。「美しい自然を住民が守って欲しい」「観光については住民が相談して自らルールを決めると良い」とアドバイスがありました。

## 2/12 熊川宿まちづくり総集會



千田千代和町長と杉谷正美教育長が「まちづくり活動の活発さを感じます」とあいさつされました。

「若狭町かみなかの語り部」会長の中塚政雄さんからは、語り部の活動が年間三〇〇回を超えることや、熊川の懐かしい昔話をお聞きしました。

次に、三月の公開を前に日本風景街道モデル

ート事業で制作した「熊川宿ホームページ」の紹介がありました。

また今回、重伝建選定十年に因んで、「熊川宿この十年・まちづくりの歩み」と題して、〇〇〇点に及ぶ写真を展示しました。



## 3/20 踊りの練習開始(伝統芸能保存会)



てっせんと熊川音頭の唄と踊りの練習が始まり、毎月十日と二十日の夜、練習しています。なお、てっせん踊りを長きに亘りご指導いただいた一乗寺郷土芸能保存会の河村正男氏が二月に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 4/10 妻籠・馬籠へ研修(葛細工の会)



妻籠宿は、平日ということもあって観光客も少なく大変すいていて、閑静なたたずまいを見せていました。

馬籠宿の坂道を下ると、霧圓氣的に明るく若い人でも住める気がしました。土産物屋も増えていて、民芸品やお漬物など品物も多く清潔感を感じました。

## 4/下旬 河内川に泳ぐ鯉のぼり



若狭町商工観光課のご協力で中条橋近くの河内川に鯉のぼり十数匹を設置しました。川面に映る鯉のぼりをカメラに納める観光客が見受けられました。

熊川区では、ご家庭のタンスに眠っている鯉のぼりがありましたら提供してほしいと呼びかけています。

## 熊川宿の語り部案内資料

国土交通省のまちづくり支援「日本風景街道モデルルート事業」で「熊川宿語り部案内資料」(冊子)を作成しました。

「若狭町かみなかの語り部」として熊川宿を案内される語り部さんのためのテキストで、カラー写真をふんだんに使って熊川宿の歴史や見どころを解説しています。



## 鯖街道要所案内マップ

日本風景街道モデルルート事業で、鯖街道沿線の関係機関のご協力をいただき、若狭小浜から熊川宿や朽木を経て京都の出町に至る鯖街道の要所や見どころを紹介した観光マップができました。宿場館はじめ、鯖街道各地の主要拠点に配布されました。



## 熊川宿ホームページ開設

熊川宿ホームページが完成し、公開されています。

鯖街道の由来やまちづくりの歩み、「熊川いつぶく時代村」を紹介しています。なおこのほどアドレスが変更になりました。





5/3

## 白石神社祭礼賑やかに

宵宮でお囃子を奉納しました。当日は快晴に恵まれ、新調された幟旗が青空に映えていました。午前中、神事が執



り行われ、午後から児童館でお囃子を奉納、青年や子どもたちが奏でるお囃子にのせて、区民や観光客が山車を曳き熊川全区を巡行しました。



4/29

## 宿場館前井戸ポンプ舎完成

熊川宿町並み保存伝統技術研究会の多大なご協力で、井戸ポンプを雨水から守る上屋が完成しました。本格的な夏を前に、昔懐かしいがっちりポンプで手を洗ったり休憩したりと憩いのスポットとなりそうです。

熊川宿町並み保存伝統技術研究会の委員は次の方々です。  
西野徳三、河合貞雄、宮田勝美、井上守、内藤浩義、澤田一夫、萩野隆弘、川辺盛雄、野瀬秀之、宮田幸次、西野左武朗、池田源三、井ノ口清英  
(敬称略)



6/3

## 丹波篠山日置の方々が来訪

篠山市日置地区の方々二十五名が熊川宿を訪れました。一行は、熊川宿まちづくりの経緯や苦労話をお聞きになり、町並みを見学されました。同地区は日本風景街道事業も目指しておられ、今後お互いの交流を約束しました。

5/23  
24

## 全国伝建協議会 高岡大会

熊川宿町並み保存伝統技術研究会とまちづくり委員会の代表が出席しました。講演や郷土芸能を鑑賞し、全国の町並み保存関係者と交流を深めました。

翌日は、菅沼と相倉の合掌集落を見学しました。



5/19

## ツデーマーチおもてなし

若狭三方五湖ツデーマーチの第一日目、熊川宿コースの来訪者約千名に、熊川宿女性の会とまちづくり委員会メンバーが「長操鍋(大豆入豚汁)」を振る舞いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、昨年同様大勢の方々にご好評をいただきました。

## 川柳 町並み散歩

雨宿り良いことあったの  
蛇の目傘  
夕暮れもおくみ進んだ  
ケンケンバ  
吉井戸を囲む  
いにしえ今昔  
選ばれた歴史と  
味や十八里  
功

若狭町文化財室からのお知らせ  
平成30年4月1日より町の機構改革により熊川宿の担当が教育委員会から文化財室に変わりました。

## あとがき

五月晴れのもと、白石神社の祭礼で盛大に山車の巡行が行われました。

熊川宿では、「第二次熊川マスタープラン」をはじめ「全国都市再生モデル調査」「日本風景街道モデルルート」とさらなる発展に向けて数々の事業が進められてきました。町並み整備というハード面が一段落した今、地元住民はもとより訪れる人、迎える人、それぞれみんながよくなるまちづくりを目指してソフト面の充実が望まれています。

熊川宿のホームページも開設され、熊川宿のPRに加え熊川宿ファンの募集が検討されています。また旧逸見勤兵衛家では住民有志による喫茶のおもてなしがスタートしました。

まちづくり特別委員会は今年度から、活性化・広報・町並み対策の各部会を作り、さらなる充実と活性化を図っていく予定です。

編集委員